

日時

平成30年11月19日 午後3時30分～午後5時

会場

市役所本庁舎4階大会議室

出席委員

佐々木委員（会長）、申委員（副会長）、一瀬委員、上原委員、廣瀬委員、原（佐野）委員、川島（穂坂）委員、田中（傳田）委員、殿岡委員、大代（小林）委員、前野委員、志村委員、水野委員、中野委員、佐野委員、浅利委員、豊木委員、山縣委員、七沢委員、越石委員、畑委員、渡邊委員、若尾（細田）委員、山田委員、五味（竹野）委員、水谷（小林）委員、渥美委員、長坂委員

※（）内は代理出席者

事務局

望月リニア交通室長、丸山交通政策課長、土橋交通政策課長補佐、小林交通政策課主任

傍聴者

1名

議題

○計画骨子・利用促進事業案

会議要旨

【議長（会長）】

・審議事項について、事務局に説明を求めます。

【事務局】

・計画骨子（案）について説明。

【議長（会長）】

・ただいまの説明について、ご意見・ご質問はございますか。

【委員】

・9ページの図における重点区域について、アンケート結果によって公共交通の利用に転換しやすいエリアを中心に選定したとのことであるが、例えば山城地区においては山城小学校が県内で一番児童が増えている。また、南部のスポーツ公園周辺の人口が増えている。市街化調整区域ではあるが条例により住宅も非常に増えている。当該地区は現計画では重点区域に入っていないが、リニア新駅周辺やスポーツ公園周辺のエリアを、公共交通の利便性を高めるエリアとして考えていく方向性はないのか。

【事務局】

・現計画における幹線の考え方として、現在において人口密度と公共交通の利

便性が高い所で設定している。山城地区においては、現在支線バス相当である豊富線や御所循環等が運行されているが、H25年に一部路線が廃止になったことから、不便であると思い、H28年に自治会連合会長に今後の方針について相談させていただいたが、公共交通についてはそれ程、必要としていないということであった。

- ・確かに将来の人口増加等も見据える必要があるため、住民の要望等があれば幹線バス、または甲斐住吉駅や国母駅に繋がるコミュニティバス等を検討していきたいと考えているが、あくまで現在の公共交通の利便性の高い箇所を設定している。

【委員】

- ・アンケート結果について、バスを利用したことが無いと回答した人の理由を見ていくと、乗り方が分からないや、バス停がどこにあるか分からないということであるが、ある程度年齢を重ねるとバスに乗る機会も少なくなり、本当に分からなくなるということもある。自治会等での話し合いの時にバスの乗り方やICカードの周知ができていないため、バスに乗るのが怖いとか、細かいお金が無いと乗れない等と言う人がいるが、何かで周知を徹底して行えばバスに乗ってもらう機会があるのではないか。

【事務局】

- ・アンケートについて、バスを利用したことが無いという回答が5割以上となっているが残念とは思っていない。そのような人達に、もしかすると利用してもらえるのではないかと、発展的に捉えている。これまでも数々の利用促進策を行っているが、まだ不足していると認識しており、「甲府市バス・鉄道乗る乗るレンジャー」制度や市の職員による「こうふエコ通勤デー」、商店街関連ではH13年からバス事業者が行っている100円バスについて、チラシによる周知を行ってきたところである。指摘の通り、バスに乗ったことが無いという回答や、乗り方が分からないという回答に対しては今年度予算投入して、みなみおばちゃんが出演するバスの乗り方動画を行政が作るという全国的にも稀な取組を行った。ただし、まだ市民に浸透していないものと考えられるので、積極的な周知に努めたい。

【議長（会長）】

- ・伸びしろが大きいとも考えられる。通常公共交通の利用者は、通勤通学に比べ買い物目的が少なくなるのだが、甲府市の場合、通勤通学で利用している人が少ないと考えられ、比較的伸びしろが大きいと読み取れる。そのような意味でもこれから利用促進事業等をきちんとしていくことで利用する人が多くいるということで前向きに考えていきたい。

【委員】

- ・昔は回数券のようなものもあったが、現在もあるのか。そのようなものも含めて、まちの話し合いの場でバスの便利さやバス停の場所等を伝えてもらえれば利用も多くなるのではないか。

【委員】

- ・紙の回数券については、今は廃止となっている。その代わりに PASMO を導入し、累計 1,000 円ご利用いただくと次の機会に 100 円(1割)上乗せされるようなシステムになっている。

【議長（会長）】

- ・その他にご意見・ご質問はございますか。ないようですので、次の審議事項について、事務局に説明を求めます。

【事務局】

- ・利用促進事業（案）について説明

【議長（会長）】

- ・ただいまの説明について、ご意見・ご質問はございますか。

【委員】

- ・49 頁の施策 3-8 について、まずはニーズ調査を行うということであり、現状でどのような人が公共交通を利用しているかや、その理由を把握してほしいが、母数に対してどのくらい利用されているのかを見ないと伸びしろがどのくらいか分からない。
- ・また、病院とタイアップした事業が考えられないか。事例にあるような待合室へのバスロケーションシステムの設置は良いと思う。慢性疾患で特に生活習慣病等の比較的安定している人であれば活動量を多くすることが病気の予防につながるので、通院する日くらいは公共交通を利用して、病院との間で何らかのインセンティブがあるような取組み等、色々な事が考えられるが病院と連携して考えていってほしい。

【事務局】

- ・49 頁について、母数に対する利用者の把握ということは当然必要であると思っており、県立中央病院、国立甲府病院、甲府共立病院に対し事業者ヒアリングを実施し、通院者が市内から何割来ているか等、分かる範囲で数値をもらいながら分析を進めている。健康に絡めた施策については、現在あまり盛り込めていないと事務局でも懸念しており、改めて盛り込んでいくよう検討していきたい。

【委員】

- ・ジェロンタクシーは面白いと思うが、一方で Uber のような交通手段を先進的に甲府市で取り組んで観光客の利便性を向上するようなことも考えられる。

タクシー等との競合も考えられるが、ユーザー目線で述べると、海外では当たり前となっており、とても使いやすい。そのような新しい交通手段等もどこかで取り込むことができるのか、検討の余地があれば考えてほしい。

【事務局】

- ・ジェロントクシーの活用については、全国で福岡市や北九州市、諏訪地区で実証実験を行っており、まだ本格運行に至っていないが、本市としてもタクシー事業を活用した公共空白地域への対応は必要と考えており、現在 JTB と打合せをしている状況である。Uber については、現段階では言いにくい部分もあるが、京都府内でやっているという情報もあるので、実施自治体の話等も聞きながら検討していきたい。タクシー事業者の意見はどうか。

【委員】

- ・Uber については、安全性や白タクという制度面が問われているがどのように考えるか。外国での反対意見等も多く聞いているので、必要であればそのような資料は揃えられる。

【議長（会長）】

- ・Uber も含めて施策 2-5 等も関連する。公共交通としてどのようにタクシーも含めて利便性を上げていくか、今後計画に盛り込んでほしいと思う。ジェロントクシーや諏訪地区等の情報をもらいながら地域で支える交通の位置づけとして、有償や無償も含めて利用可能な手法を運輸局でも事例を集めているとのことなので、それらも合わせて計画に反映し、利便性を向上させていくよう検討してほしい。

【委員】

- ・情報活用や定時性での情報技術活用について、23 頁の施策においてはバスロケーションシステムのデータを 4 年程度蓄積し、遅延状況を分析中である。定時運行している路線もあるが、渋滞がランダムに起こるため、長い路線では場合により 30 分以上遅れることもある。これはバス事業者の問題ではなく、突発的な渋滞の問題等、どうしようもない問題もあるため、それを受け入れた上でバスの到着予定時刻をできるだけ精度よく予測するということが、道路状況を踏まえた上での新たな情報活用の視点として有用性があると考え、研究を進めている。また、鉄道等との乗継ぎに関し、いかに早く情報提供するかということが重要と考えている。積極的に協力をしたいと思うので、具体的な事業展開を見据えて連携していきたい。

【議長（会長）】

- ・連携について提案頂いたということで、事業者との調整もあると思うが、是非連携して頂きたい。

【委員】

- ・飲酒運転対策として、17 頁のような案を考えていただいたが、深夜バスはどのくらいの頻度で考えているか。

【事務局】

- ・17 頁については、事務局で検討したいと思っているが、事業者のハードルは高いと考えている。前回の協議会でも委員の方々から最終バスの時間が早いとの話があり、甲府市北部では 21 時半、南アルプス市は 22 時半、東部に関しては 20 時半くらいで終わってしまうという意見を頂いた経緯から検討をしている。ただし、最終バスを遅くするためには人件費がかかるため、積極的に深夜バスの運行を行うには障害があると考えており、30 分に 1 本運行している高速バスが山梨交通では敷島、富士急山梨バスでは上阿原に回送されるため、これに乗車ができないかという提案を考えている。ハードルは高いと考えられるが、まずは社会実験によりニーズを検証する必要があると考えている。過去にバス事業者が深夜バスの社会実験を行ったが、結果として利用状況が良くなかったため、実施しなかったという経緯もある。まずはニーズを把握するため、高速バスを活用して社会実験を進めていきたいと考えている。

【委員】

- ・ソフト対策としてバスコンシェルジュについて話があったが、現行のバスコンシェルジュは使いにくい。例えば甲府と入力すると似たような箇所が一緒に出てくる等、路線バスは、目的地付近のバス停名が分かりにくいいため、もっとピンポイントにする必要がある。他のソフトでは行き方を提案してくれるようなソフトもあり、逆にこのような行き方もあるのだと分かれば利用促進につながると考えられるので、技術的には難しいのかもしれないが、既存のソフト等と連携し、深夜便等の情報提供を行えば、余計にバスに乗らなかったような人が乗るようになることも考えられるので、そのようなことも検討してほしい。

【事務局】

- ・バスコンシェルジュについては、新たな提案ということで、事業者や行政も入って一緒になってできることを模索していきたいと考えている。

【委員】

- ・24 頁と 54 頁の実施時期が後期となっているが、開府 500 年とオリンピックが続く前期で是非やっていただきたいが、なぜ後期なのか。

【事務局】

- ・指摘の通りであると感じている。24 頁については、以前運行していたレトボンに代わるものとして前回の協議会で意見があったので施策に入れたものがある。なぜ後期としたかについては、今現在で利用ニーズがあまり見えてい

ないので、まずは利用促進をして、バスを移動手段として認識してもらってから松本市のタウンスニーカのようなものを考えていきたいと考えている。

- ・観光地の周遊バスについては、観光客にとってのニーズはあると思っており、いち早く対応するために56頁に記載のような観光バスマップを作成し、甲府駅で配布している。ただし、昇仙峡から美術館には行けるが、美術館からは甲府駅を経由しないと善光寺方面に行けない等、周遊ができない課題は感じており、周遊バスの必要性は感じているが、あまり積極的に前期としていないのは、既存バスとの競合等も考えられるため、検討する期間が必要なのではないかという考えから後期としている。

【委員】

- ・レトボンを観光利用に考えて頂けるという話は聞いているので、是非前期で事業化を目指してお願いしたい。

【議長（会長）】

- ・レトボンや観光地の周遊バス等、利用実績等のデータがあれば入手し、ニーズの把握等が可能であれば早めに進めるということが必要に思うため、事務局の方でそのように進めて頂けたらと思う。

【委員】

- ・観光周遊バスに関する近況として、河口湖では外国人が多い。現在は朝に富士山五合目に行き、世界遺産周辺を回るルートと、午後に同じように富士吉田または山中湖を回る2ルートを運行している。料金は2900円であるが利用者が伸びず、土日のみ運行しているが現状ではまだ利用者が15人くらいであり、採算的にはまだまだという段階である。
- ・既に4~5年やってきており、周知期間がかなりかかっている。徐々に利用者が伸びてきているが厳しい状況である。

【議長（会長）】

- ・やはり前期に早めに実施することが大切である。後期だとなかなか効果がでない可能性もある。周知も含めてどのようなことが可能であるかということを検討していければよいと思う。

【委員】

- ・施策6-1は記載の通りだと思う。若松町から甲府駅に行くバスが朝の7:45と、夕方に一本ある程度であり、バスに乗りたいが方法がない。乗客が少ないから本数が少ないのだと思うが、実際問題として乗ろうと思う時にバスが通らないからたちごっこになっている。甲府駅から帰るのは便利だが、自宅から市役所や甲府駅に行くのが不便であり、高速バスを利用した深夜便も大賛成であるが、どうしても今後も自動車を運転しなければならない。免許を返したことによって生活の迫力がなくなった人が現実に周りにもいるので、難

しい問題であると思う。

【議長（会長）】

- ・細かいニーズをどのように把握し、例えば少しのバス停の移設等で対応可能なかどうか、そのようなことの検討も非常に大切なのかということの指摘と考えられる。

【事務局】

- ・意見にあった路線は、城東線という附属小学校を対象とした路線と思われる。免許返納について周知したいこととしては、自動車が1日2千円程度、月にすると6万円程度の支出となり、タダではないということである。主に免許を返納した方を対象にジェロントクシーやタクシー事業の活用等を考えて対応したい。また、現在市としては免許返納者にPASM01万円相当の贈呈を行っているが、利用状況等を把握しながら積極的に事業を検討していきたい。

【委員】

- ・事務局に対しては、6つの方向性に基づいて利便性の向上について様々な施策を検討して頂き、ありがたいと思っているが、一つ気になった事として、昨今バスドライバーが気を失ったり病気を起こしたりして事故が起こっている。例えば52頁の新たな公共交通軸に向けた車両の導入のところに、列車の自動停止装置のような事故防止装置のようなものを検討してほしい。

【委員】

- ・現在、自動車メーカーでハンドルに付いたボタンによる緊急停止や、乗客が座席に付いたボタンにより緊急停止させるような緊急停止装置等を開発している。観光バスは標準装備となるため、今年のバスから導入している。路線バスについては数年後から標準装備になると思う。

【委員】

- ・1頁で公共交通の目標が書かれており、記載の通りであると思う。ただし、現在の実態やこれからの方向を見たときに、24頁のように甲府駅で降りて、目的のところに歩いて行くということが大事なことではあるが、高齢化が進むとそこまで行くということが大変なのではないかと思う。目標は目標として、そのような視点の中でできるだけ目的地のすぐ近くまで行けるように、団塊世代が高齢になる時期なので、後期とあるがなるべく早く実施してほしい。また、中心部を賑やかにすることにもつながってくるように思う。郊外の商業施設には無料の駐車場があるが、中心部で自動車を利用して買い物等をするためにはお金がかかる。24頁のような方向性を持ってより早く位置づけ可能なような、または実験的にやってみるような方向性はどうか。

【事務局】

- ・中心地の活性化や、荷物が重い等のニーズがあるため、中心市街地の周遊バ

スの必要性は認識している。それに代わる手段として 100 円バスの周知に取り組んでいるが、ニーズが高いということであれば周遊バス等の検討も必要であると認識している。

【議長（会長）】

- ・深夜バス等の積み重ねにより、どのようなことが可能であるか、検討しながら進めていきたい。

【委員】

- ・16 頁のイオンモールシャトルバスの活用について、普通に考えると新たな路線を増やすものではないかと思うが、現行ルートの利用者は利便性が低下するかもしれないので検討が必要である。

【事務局】

- ・イオンモールシャトルバスの活用について、事務局としてはあるものを活用したいということで提案している。南西中学校周辺は都市マスでも地区拠点と謳っているので、路線の増便や確保は必要と感じているが、財源やドライバーの確保等の問題があるので、既存のバスの活用を検討したものである。
- ・ただし、現行は契約路線なのでハードルが高く、利便性が確保できるのか分からない。今後検討する上では路線を増やす、又は増やさないの議論になると思うが、玉諸地区と同様に、増便はしていく必要があると思っている。

【委員】

- ・45 頁の乗継拠点による拠点性の向上について、電車と違い、乗り継ぐと新たな料金が発生するので、資料に記載のように乗継割引等があるとすぐにでも利用促進につながるのではないか。前期からやってもよいのではないか。

【委員】

- ・乗継割引について、システム設定が非常に高価なので躊躇した経緯があるが、利用者の利便性を考慮し、検討課題としたい。

【議長（会長）】

- ・その他にご意見・ご質問はございますか。
(特になし)

【議長（会長）】

- ・以上をもちまして、審議事項を終了いたします。

以 上